

日本原燃株式会社における返還ガラス固化体表面汚染検査結果の
目安値超えに関する原因と対策の概要

1. 推定原因（図－1， 2）

- (1) 英国事業者（Sellafield Ltd）でのガラス固化体の製造段階において、放射性物質を含むガラス微粉がガラス固化体容器の蓋受側上面部に付着した状態で溶接を行ったため、汚染源として残った。
- (2) ガラス固化体を日本原燃株式会社の廃棄物管理施設で取り扱った際に、吊具が蓋部の汚染源に接触して粉砕し、容器表面が汚染した。

2. 対策（図－3）

- (1) 英国事業者においてガラス固化体の目視確認を強化し、蓋溶接部またはその近傍に汚染源存在箇所（以下「特異部」という）が無いかを確認する。また、特異部が確認されたものについては、追加措置として汚染を取り除く作業（ビードブラスト※）を実施する。
- (2) 当社は、次回以降の輸送において、英国での搬出前検査実施にあたり、英国事業者が追加の対応を確実に実施していることを確認する。

※ ビードブラスト：細かいステンレス鋼製の粒子をガラス固化体に吹き付けて、表面の汚染を除去する。



